

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名

山 口 県

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	油谷町立油谷小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	1	1	2	1	1	1	8	13
児童数	30	29	30	45	22	37	1	194	

研究の概要

1. 研究主題

自ら学びを切り拓く子どもを育てる
 ~基礎的な学力を高める朝学習と一人一人によりそった授業を通して~

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

・全学年、算数

積み重ねを必要とし、学力差が生じやすい教科であるため。

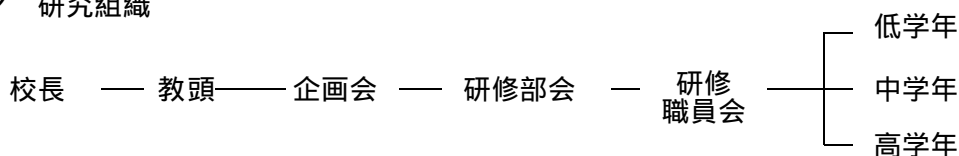
(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ 基礎的な学力を高める朝学習の工夫と一人一人によりそった授業づくり 研究の見通し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の実態に応じ、内容を精選して「読み」「書き」「計算」に継続して取り組めば、基礎的な学力を高めることができるであろう。 ・一人一人に寄り添い主体的に取り組める授業を仕組んでいけば、自己教育力(態度・技能)が高まり、主体的に学ぶ児童の姿が見られるであろう。 <p>研究の内容・方法 (朝学習)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個に応じた学習内容の工夫(実態・興味関心) ・意欲もてる取り組ませ方の工夫 <p>(授業)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個に応じた指導のための教材開発 ・課題と見通しの持たせ方の工夫 ・指導に生かす評価の工夫
--------	--

平成16年度	<p>テーマ 意欲的に取り組める朝学習と一人一人によりそった授業 研究の見通し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の実態に合うよう朝学習の取組を工夫していけば、より意欲を高め、基礎的な学力を高めることができるであろう。 ・単元構成や学習形態の工夫、授業の成果を見取るための具体的な評価の仕方を探りながら一人一人に寄り添った授業をめざしていけば、自己教育力(思考・態度)が高まり、主体的に学ぶ児童の姿が見られるであろう。 <p>研究の内容・方法 (朝学習)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個に応じた内容と取組方の工夫 ・漢字・計算のつまずきの傾向と対策 <p>(授業)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個に応じた指導を重視した単元構成と学習形態の工夫 ・「考える力」を伸ばす教材開発 ・個を伸ばし指導に生かす評価の工夫
--------	--

(3) 研究推進体制

ア 研究組織



イ 朝学習の取組

ア 朝の20分間を朝学習の時間とし、読書・漢字・計算に全校体制で取り組む。全職員で対応し、学年や一人一人の実態に応じた指導ができるようにする。

曜日	月	火	水	木	金
内容	計算	漢字	読書	計算	漢字

イ 朝学習用の漢字・計算プリントを作成。

ウ 授業の取組

ア 個に応じた指導体制の工夫

T・T指導の活用

・ 低学年など補助を要する児童が多い場合や学力的に極端に差が大きい児童が学級にいる場合など、学年や学級の実態に応じ単元内容を考慮しながら活用する。また、発展・補充学習を行う前段階として行う。

少人数指導の編成方法

・ 均一グループ ----- 人数、学力についてほぼ同等のグループ分け。メンバーや担当者を固定せず、単元ごとに編成。少人数でいろいろな意見を出させたい際に活用。

・ 習熟度別グループ ---- 既習内容の理解度に基づいたグループ分け。レディネステストなどを行い、児童自身が判断してグループに分かれる。単元内のグループ移動も認める。

・ 到達度別グループ ----- 形成的評価や到達度を基にしたグループ分け

・ 興味関心別グループ ----- 児童の興味・関心に基づく学習課題にそったグループ分け。多様なグループ分けはできないため、協議しながら課題をしぼる。

イ 授業研究

公開授業を低・中・高学年ブロックそれぞれ1学級ずつ行い、研究を深める。

平成15年度の研究の成果及び今後の課題

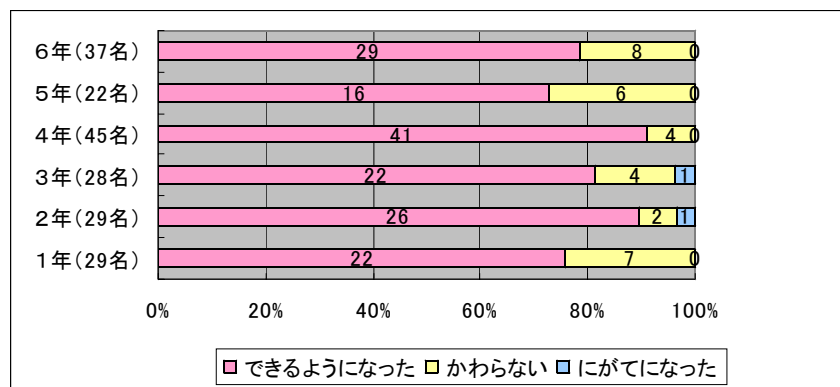
1. 研究の成果

(1) 授業の取組から

算数の授業がよく分かるという子が増えており、「算数が好きになった、おもしろい。」と感じている子が多い。これは、少人数グループ学習、T・T指導による形態の工夫や算数的活動を取り入れた教材開発により、学習の理解度が高まったためと考える。また、「学習カード」による自己評価を支援に生かすように心がけ、「一人一人によりそった授業」をめざしてきたためだと思う。

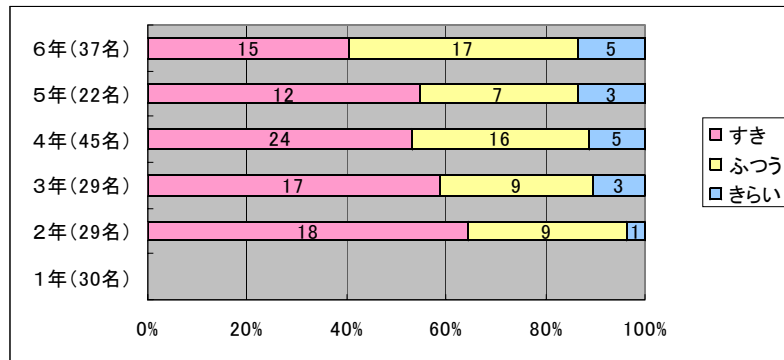
<算数アンケート結果>

Q. 1学期と比べて算数ができるようになりましたか。 12月実施

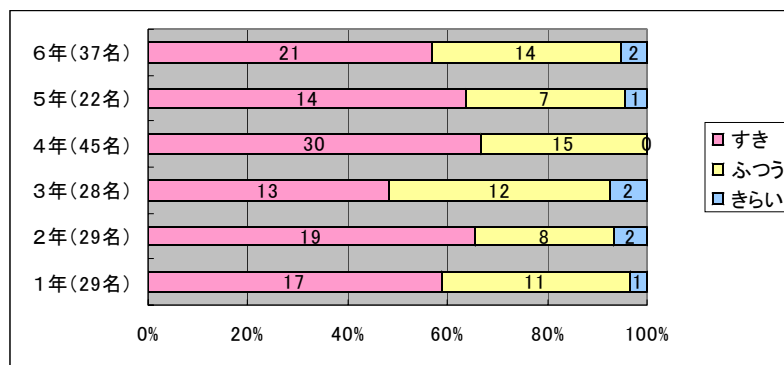


Q . 算数は好きですか。

4 月実施



1 2 月実施



Q . コース別に少ない人数で分かれて学習して、よかったところはどんなところですか。

- A .
- ・ いっぱい問題があっすぎてすごく大変だったけど、おもしろかった。
 - ・ 静かに集中して学習できる。
 - ・ 自分から手を挙げるできるようになってきた。
 - ・ 苦手なことができるようになってきた。
 - ・ 質問しやすいので、難しいところもわかってできるようになった。
 - ・ 方法別だと、いっしょになった時には両方の意見がたくさん聞けるし、コースに分かれた時には、わからないところがあってもわかるまで教えてもらえる。
 - ・ 分かれたことによって、違うやり方がわかったし、答え方が変わってきた。

< 算数的活動の実践例 >



1 年生
「かたち～ロボットをつくろう」





3年生 「長さ ～ 1 km地点をさがせ!～」

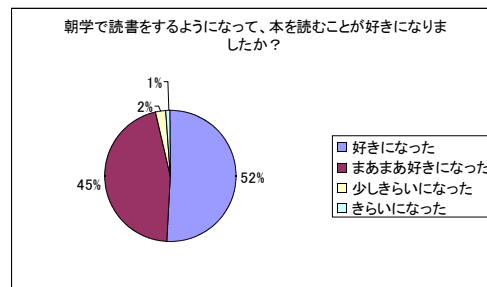
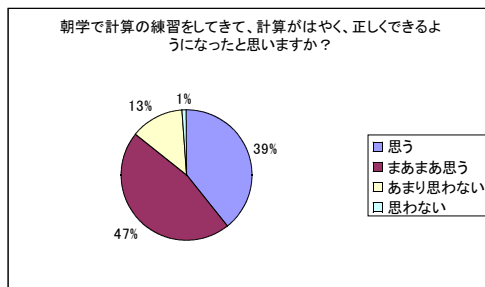
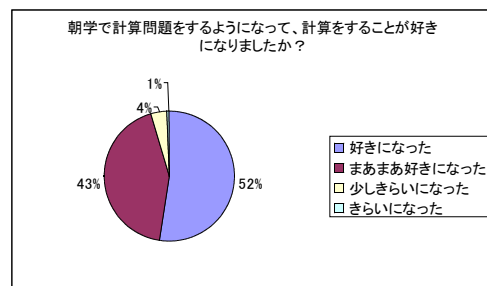
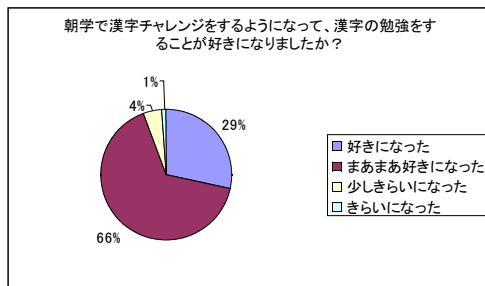


4年生 「小数 ～ 小数つかみどりゲーム～」

- (2) 朝学習の取組から
朝学習に進級制度を取り入れたことで、漢字・計算に対する学習意欲が高まった子が多い。計算については、自分のつまずきに気付くことができるとともに自分の力に応じた内容に取り組むことで負担が少ないためか計算が苦手な子も意欲的に取り組んだ。また、読書好きの子が増えてきた。

< 朝学習に関わるアンケート結果 >

(2年生以上の学年, 12月実施)



- (3) 研究全般の取組から
研究の取組を明確にし、職員の共通理解を図って全校体制で研究に取り組むことで、子どもたちの授業に対する姿勢も変わり、根気よく集中して学習に取り組むことができるようになってきた。

また、学校全体が落ち着いてきており精神的にも安定してきたのか、昨年度に比べて欠席人数・保健室への来室者がかなり減っている。心を落ち着けて、学習できることは学力向上においても重要なことと考える。

2. 今後の課題

- (1) 一人一人によりそった授業をめざす単元構成や学習形態の工夫、授業の成果を見取るための具体的な評価の仕方を探っていく。
- (2) 本校としての少人数指導のあり方を再検討し、少人数形態のグループの分け方や授業の進め方の基本となる大枠づくりをする。
- (3) 普段の授業においても研究主題に大きく関わり、子どもたちの一番苦手とする考える力を伸ばすことを重視し、算数的活動を取り入れた授業づくりを心がける。
- (4) 朝学習の取組を再考し、より一人一人に応じた取組をめざす。
 - ・朝学習の時間
 - ・一人で進められない子の指導の工夫
 - ・自己評価と教師の評価
 - ・授業との関連
- (5) 授業と家庭学習との関連を考える。

学力等把握のための学校としての取組

- 1 算数ふりかえりアンケート
(目的) 子どもの授業に対する意識を知り、授業に生かす。また、自己の取組を振り返らせる。
(実施内容) 算数に対する意識調査
(実施時期) 各学期末
- 2 学力テスト
(目的) 子ども一人一人の学力や伸びをつかみ指導に役立てる。また、学級や全校の傾向を把握し、研究の取組に生かす。
(実施内容) 国語・算数
(実施時期) 学年初め

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- 1 公開授業 平成15年11月25日(火)
算数科 4年生「小数」
- 2 地区別協議会 日時 平成16年 2月10日(火)
場所 萩市立明倫小学校
対象 萩管内小中学校 教員、各フロンティアスクール保護者、
地域の方々
目的 平成15年度の取組の報告
- 3 研究紀要 3月末 配布予定(萩管内小中学校)

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無